

特集

日本留学のための試験

座談会

日本留学のための新たな試験の
実施に向けて

《出席者》

中嶋嶺雄 水谷 修 星 猛 清水留三郎
村上 隆 芝田政之 若林 元(司会)

はじめに

若林…このたび、「日本留学のための新たな試験」調査研究協力者会議において「日本留学のための新たな試験について―渡日前入学許可の実現に向けて―」という最終報告をおまといいただきましたが、本日は、調査研究協力者会議の委員の先生方から報告の内容、経緯等について、お話をうかがいたいと思います。平成一〇年六月から約二年間にわたって検討されましたが、まず、留学生の入学選考の在り方について検討を行うことになった背景等について、芝田委員からお願います。

芝田…現在、我が国の留学生数は約五万六〇〇〇人で、高等教育人口に占める留学生の比率は欧米諸国に比較して大変少ない数となっています。この理由としては、いくつか考えられますが、その一つとして、我が国の入学選考の在り方が考えられます。我が国に留学するためには、まず日本に来て試験を受けなければなりません。このことが海外の留学希望者にとって大きな負担となっています。そこで、海外にいるうちに日本の大学の入学許可を出すことを目標に、そのための入学選考の重要な材料となる試験として検討を開始し

たわけです。

若林…中嶋先生には、座長として報告をおまといをいただきましたが、おまといをいただくに当たって、特にご留意いただいた点などについてお聞かせください。

中嶋…入学選考の在り方を見直すことは、大学にとっては大きな問題なので、委員の先生方も難しい部分を含んでいるということは承知しながらも、留学生の負担を軽減するという方向でご協力をいただいたことに感謝しています。また、準備に時間がかかる問題ではありますが、このような変革は早く進める必要があるとのことから、平成一四年度実施ということになりました。今後は、この試験を利用する大学側の問題が残っています。広報も大事ですが、グローバル化に向けて、大学がどう渡日前入学許可を実現してくれるかを期待しています。

1 「日本留学試験」の基本的内容
について

1 日本語

若林…日本語力の測定については、日本語能力試験に代えて「日本留学試験」において、アカデミック・ジャパニーズをシングルスケールで測定することとなりましたが、このこ

留学交流

CONTENTS

2000.9 SEPTEMBER

特集 日本留学のための試験

座談会	日本留学のための新たな試験の実施に向けて中嶋嶺雄・水谷修・星猛・清水留三郎・村上隆・芝田政之・若林元・2
資料	日本留学のための新たな試験について一渡日前入学許可の実現に向けて一(概要版)「日本留学のための新たな試験」調査研究協力者会議・8
事例紹介	法政大学における外国人留学生特別入試の概要 ー「筆記と面接による制度」と「書類審査による制度」ー法政大学入試センター・10
	北陸大学留学生海外入試について佃 志津・12
	日本留学のための試験と準備教育高木壯之・14

エッセイ

留学で学んだSRC

角松正雄 16

留学生と教育

九州大学における事務系職員に対する英語実務研修について

高原芳枝・西原曉子・平川春美 18

海外留学レポート

イタリア留学体験記

宮本恭子 24

●海外留学Q&A●

中国留学に新しい規定ができたと言いますが、その名称と大体的内容を教えてください。また、留学生生活の場では、実際にどのような変化が見られるのでしょうか? 26

●インフォメーション●

第10回マレーシア総合セミナー「アジアの人的ネットワーク」～留学生交流の現状と課題を考えるシンポジウム～開催概要

日本マレーシア協会 29

2000年海外留学フェアの開催について

日本国際教育協会留学情報センター 30

第1回AIEJ/ユネスコ青年交流信託基金大学生プログラム募集について

日本国際教育協会留学情報センター 30

●BOOKS●

「海外留学の手引き」 31

私が会長を務めるTAFSA(Thailand Association for Foreign Student Affairs)は、今年の5月にバンコクで設立準備総会を行いました。本年10月には設立会を行います。

TAFSAは、タイの国際教育交流の専門家に、国際教育交流の分野のトレーニングや情報、その他のサービスを提供するために設立された、非営利団体です。また、現在タイで学んでいる留学生や将来の留学希望者をサポートするタイの大学の事務官のために専門教育も促進していくつもりです。

また、TAFSAは、他のアジア諸国の同様の団体、JAFSA、KAFSA、CAFSAなどと協力して、アジアにおける国際協力交流ネットワークの構築を推進していきます。同時に、TAFSAの設立によって、タイ、ミャンマー、ラオス、カンボジアおよびベトナムといった国の間の学生交流が活発になることが期待されていると思います。

私は、異なった教育・文化のバックグラウンドを持った留学生からの要求に応えるには、特別な知識が求められると考えています。TAFSAの設立がうまくいって、タイに留学する学生やタイから海外に留学する学生に私たちの専門的なサービスが提供できるようになれば、学生達は留学を非常に快適なものと感じることができるようになり、タイに留学する学生とタイから留学する学生の数も増えることが期待できます。この目的を達成するためには、外国人留学生の受入れと海外への留学生派遣の現状を、分析する必要があります。結果として、アジア諸国において、留学生交流は重要な役割を果たすようになると考えています。

1934年生れ。チュラロンコン大学(タイ)、マヒドン大学(タイ)、ロンドン大学(イギリス)、コロムビア大学(米国)で公衆衛生を学び、コロムビア大学で博士号を取得。マヒドン大学及びコンケン大学教授を経て、特命公衆衛生副大臣、大学大臣、外務大臣といったタイ政府の要職を歴任した。現在、フォン・テクニカル・カレッジ理事長。会長として、TAFSA設立に尽力した。苦学して学業を修めた努力家であり、故郷の貧しい人々の衛生環境向上のために尽力し、フィリピンの開拓から表彰された経歴もある。

橋を架ける人④

クラセー・
チャノウオン さん
タイ TAFSA 会長



とについて、お話しください。

水谷…大学で勉強するためには、日本語力は無視することはできませんが、従来の日本語能力試験では、大学で必要とする日本語が測定できず、留学生を大学に受け入れて指導するための試験としては不適切でした。この試験では、アカデミック・ジャパニーズという留学生が効率的に目的を達成するのに役立つ日本語力を測定することとし、専門的なことではなく、大学の中で必要とされる基礎的なこと、流れをしつかり身につけることを目標として問題を作ろうとしています。

若林…「日本留学試験」の日本語では、新たに記述式による解答を求める試験を実施することとしたことについては、いかがでしょうか。

水谷…日本語能力試験は、受け身の試験でした。これは、読んで理解する、聞いて理解することでは意味がありますが、受け身だけでなく自分の意見が出てこないで、自分の考えをことばにすることを試験にしたい、また、そういう教育をしてくださいという趣旨です。記述試験は採点に当たって相当な手間がかかりますが、苦しくてもそれが必要ということ、受験者や教える側にぜひ理解してほしいと思います。

2 基礎学力（数学、理科）

若林…「日本留学試験」では、日本語の他に、基礎学力（数学・理科・総合科目）を測ることになっていますが、数学・理科について、それぞれの留学生の母国と日本の学習内容は、部分的に違いがあるところもあります。この点についてはどのように配慮されていますか。

星…もちろん、諸外国からの学生の学力、学習範囲には差がありますが、高等教育機関で勉強するために不可欠な基本的原理・法則の部分は測る必要があります。また、そういった基本的な原理・法則を理解し、それらがどのように応用されるのかを考える論理的能力を測ることが重要です。この能力があれば、大学での学習に対応できます。アメリカのSAT、ACTでも論理的能力を測る傾向が強く、基礎的知識と論理的能力をバランスよく測ることに重点を置いています。そのためには問題編集委員の役割が重要です。

若林…文系の留学生に対しても数学の試験を課すこととした点についてはいかがでしょう。

星…本来、文系であっても、論理的能力を測るために、数学の試験を課すことは大切ですし、現在では経済・経営・デザイン等、文系

でも数学が必要となる学部が多くあります。実際には数学を試験科目として課さない大学もあるので、選択制とし、大学が選択できるようにしました。なお、文系および数学を必要とする程度が比較的少ない理系学部用の数学コースと、数学を高度に必要とする理工系学部用の数学コース2に分けました。

若林…理科については、物理・化学・生物の三科目から二科目を選択させることとなっておりですが、二科目を課すこととした理由等についてお聞きします。

星…専門小委員会でも、この点については議論を重ねましたが、そもそも自然科学としては、物理・化学・生物の三つの分野の知識が必要なんですね。それでも、必ずしもすべての分野を必要としないと言われる大学もあるので、二科目が妥当であろうということになりました。この二科目選択というのは、学生の発展性や潜在能力を考えてみた場合、幅広い知識をもっていた方が、大学の勉強に、さらに卒業後にとっても望ましいのではないかと考えられます。

3 基礎学力（総合科目）

若林…次に総合科目ですが、この科目を設けることになった意図についてお聞かせください。

日本留学のための試験



中嶋嶺雄 協力者会議座長
東京外国語大学長

い。

清水・文系の学部留学生が日本の大学で学習するとき、現代日本の基本的知識を理解していないと、広い意味で日本留学が成功するかどうか不安があるわけです。また、世界各国の関わりが深まる一方の今日、近現代の国際社会の基本的問題について考え、判断する能力があるかどうかを測定し、日本留学が成功するだろうと確信を持ちたいという意図があります。

若林・総合科目を設けることについて、協力者会議でも議論がありました。その点についていかがでしょうか。

中嶋・総合科目については、議論が白熱しました。日本では、従来、基礎学力という知識の蓄積がどの程度あるのかということが求

められてきましたが、調査研究協力者会議の審議では、知識だけでなく能力つまり思考力、判断力がいかにあるかが重要であるとの意見が多くありました。それで、理系では数学・理科でその部分を測定し、文系では総合科目を設けて測定しようということになりました。参考になる試験としては米国のSATや日本では国際基督教大学の入試問題等があります。このような試験は、従来にない画期的なものと認識しています。このような前提で、清水先生の総合科目専門小委員会に議論を委ねました。

若林・シラバスによれば、総合科目の内容は、公民・地理・歴史となっていますが、日本に関する知識はどの程度求められるのでしょうか。



水谷 修 日本語専門小委員会主査
名古屋外国語大学教授

清水・中嶋先生からお話があったように、知識を問うより能力を問うことは当然配慮することになっています。日本に関する知識を問うことは避けて、そういうものを材料として取り上げ、これについてどの程度理解できるのかを問う問題にしたいと考えています。

若林・従来の私費外国人留学生統一試験では世界史のみを課していたので、今回は範囲が広がったという意見もありますが、これに対してはいかがでしょうか。

清水・出題内容の範囲が広がることで留学生の負担を増やすことにならないかという心配も、確かにありました。出題範囲とは、あくまでも題材でしかありません。そのことを知っているか否かを問うではありません。歴史も、世界史的時代の流れではなく、経済・行政・国際関係等を題材として、それらについての理解を問います。したがって、負担が増大したとは考えていません。

4 英語および出題言語

若林・次に、「日本留学試験」では英語を課さないことにしていますが、これについてはいかがでしょうか。

中嶋・入り口で日本語と英語の二か国語を課すのは、留学生にとってかなり負担になるも



星 猛 基礎学力専門小委員会主査
前静岡県立大学長

のと思われます。もし、どうしても英語を課す必要があるのなら、TOEFLのような国際的に認知された試験を使えばいいのであって、この試験に英語を設ける必要はありません。また、語学能力については、能力さえあれば日本語が十分でなくても、日本に来てから学習することができます。集中的に一年間やればできるようになります。

若林「出題言語に英語を加えたことについては、いかがでしょうか。」

中嶋「日本に留学してほしい人は、必ずしも日本語が十分でなくても、基礎学力があれば留学できる道を用意しておきたかったからです。」

芝田「英語の出題については、第一に、英語による授業を行う大学が増えていくと考えら



清水留三郎 総合科目専門小委員会主査
大学入試センター教授

れること、第二に、日本語以外の基礎学力を測り、優秀な学生に対しては、日本で一定の日本語能力を獲得することを条件として来日前に入学許可を出すシステム構築に途を開くということがあります。つまり、四年制大学なら日本語教育の期間を含めて例えば五年間の留学プログラムといった考えをとってほしいと思います。これによって、大学では、優秀な学生を確保することができるようになります。この際に、国内の日本語教育機関の役割は、ますます重要になっていくものと考えられます。

2 実施方法について

若林「『日本留学試験』は年複数回実施する

ということですが、回数・時期等についていかがいします。

芝田「回数はできるだけ多い方がいいのですが、現在の事務処理能力の限界等ということから当面、年二回、六月と十一月を考えています。時期については、大学や日本語学校から様々な意見をお寄せいただきましたが、これらの調和を考えた上で決定しました。」

若林「年複数回実施することによって、回によって有利、不利という問題が生じてくると思いますが、これについてはいかがでしょうか。」

村上「従来の日本語能力試験では、例えば、一級で四〇〇点中の二八〇点を基準としても、二八〇点の意味が毎年少しずつ違っていたわけです。つまり、難しい年と易しい年があつて、年によって難易度が違う、つまり、平均点が変動しているわけです。『日本留学試験』では、得点の等化を行うということが決まりました。これによって、どの回の試験を受けても、原則的には受験者に有利、不利はなくなるようになります。また、得点の表示方法も、素点ではなく、標準化された得点で表示することになります。従来から日本には、素点主義とも言うべきものがあるわけですが、これを打破することは、大きな



村上 隆 管理・評価専門小委員会主席
名古屋大学教授

変化と言えらると思います。等化ができて、大学側がこの表示方法に慣れれば、大学は、六月実施でも十一月実施でも、また現在利用方法は検討されておりますが、今年の試験でも昨年の試験でも、常に同じ基準で選抜できることとなります。さらに、受験者は得点を目標に勉強ができます。例えば、六月の試験を受けて、希望する大学に入学するにはあと何点増やせば一月の試験で目標達成できる、ということがわかれば、受験者にとって大きな励みとなり、モチベーションも高くなります。選抜の実施ということだけを考えれば、年一回の実施でもいいのではないかと議論もあるでしょうが、受験者が段々目標に近づいていくという意味でも、年複数回実施、等化は重要なのです。等化の実現のための条

件は、一つには統計的な理論です。これは、日本の研究は高度な水準にあり、心配はありません。もう一つは、問題作成の体制です。等化を行うには、膨大な数の問題と、それらを使ったブリテストによる事前のデータを探ることが必要です。そのためには、充分な人員と予算が必要になります。この事業に専念する職員やアイテムライターなどの外部の人材です。この点について、文部省と日本国際教育協会にもご理解をいただきたいと思います。この試験の成否は、等化の実現にかかっているといっていると思います。

若林：この試験では、渡日前入学許可の実現ということの一つのテーマとしていますが、試験の実施地はどのようになっていますでしょうか。



芝田政之
文部省学術国際局留学生課長

芝田：できるだけ多くの都市で実施したいと考えていますが、これも事務能力の限界等から、国内では北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、九州、沖縄の各都市で実施、海外では、留学希望者の多いアジア地域を中心に、当面、一〇都市程度で実施することとしています。

3 「日本留学試験」のための支援策について

若林：海外で実施し、渡日前に入学許可を出すということになると、日本語力（アカデミック・ジャバーニーズ）が十分でない留学生も大学に入学することが予想されますが、そのためにどのような対策が必要になりますでしょうか。

水谷：海外での日本語の普及は、残念ながら英語に比べてはるかに低く、日本に来て一年間学習してから試験を受けるというように、留学生に苦勞を強いています。渡日前入学許可に切り替わると、試験を受ける前に日本語を学習する機会が少なくなり、受入れを許可した大学が日本語教育を用意することが必要となります。したがって、今後は、海外での予備学習の機会をできるだけ多くしなければなりませんし、そのためには、予算、人材を



若林 元 (司会)
日本国際教育協会専務理事

計画的に配置することが求められています。例えばITによる教育の機会など、留学希望者のための日本語を海外で学習できるような計画を早くつくる必要があります。

若林「日本留学試験」を実施し、拡充していくためには、そのための実施体制や支援策等が必要ですが、この点についてご意見をお聞かせください。

水谷「海外での実施に伴い、実施国との連絡を密にしなければなりません。実施国において広く実態をつかむ努力をしていただきたい、そのための予算も確保していただきたいと思っています。

芝田「調査については、いろいろな手段を使って準備を進めたいと考えています。

中嶋「海外実施は当面、一〇都市程度という

ことですが、中央アジアや東欧にも日本留学希望者は多く、将来的には、こういうところにも広げていただきたいと思っています。

清水「アメリカ、イギリスでは、インターネットによる試験の情報提供が盛んです。プリントすれば一〇ページを超えるような資料を世界中で見ることが出来ます。この試験でも、広報という面でそれに匹敵するような努力をしていただきたいと思っています。

星「アメリカのETSでは、内部評価、外部評価が充実しています。評価についてもっと努力をする必要があると思います。

村上「評価ということでは、医師資格など各種資格について国際標準に合致したものを作っていくことが重要です。その点で、今回の日本留学試験の取り組みは、単なる留学生選抜を超えた、評価のグローバル化への大きな一歩と言えるものになりたいと思います。

中嶋「水谷先生がおっしゃるように、こういう試験制度に変えたことによって、日本語教育をもっと充実させる必要があります。この点については、文部省によりしくお願いしたいと思います。もう一つは、大学側の問題で、渡日前入学許可を推進しても、各大学の事情でこの試験を利用してもらえなければ意味がありません。日本の大学は国際化の認識が十

分ではありませんので、大学人が本格的に認識していかなければなりません。例えば、英語で学ぶ体制づくりなど、留学生に窓を開いていく。そのためには、奨学金など具体的なインセンティブを設けていく必要があると考えます。国立大学も独立行政法人化することが決まっており、今後は、渡日前入学許可の実現の有無などに関して、大学の評価をしっかりとやっていくことが必要ではないかと思えます。

芝田「この試験が利用されていくためには、そのためのインセンティブが必要であると考えています。具体的には、渡日前入学許可を出す大学に対して、文部省の学習奨励費を予約していくことを検討しています。また、この試験の予算ですが、来年度の概算要求で二億円を計上します。将来的には予算も増額し、ITを活用した試験を展開していくことが目標です。海外実施の面で外務省にも協力を求めています。国をあげてこの試験に取り組んでいきます。

若林「ありがとうございます。時間となりましたので、これで終了させていただきます。

日本留学のための新たな試験について

— 渡日前入学許可の実現に向けて — (概要版)

「日本留学のための
新たな試験」
調査研究協力者会議

1 「新たな試験」の開発

(1) 我が国の留学希望者に対する入学選考の手続きや方法は、欧米諸国に比し、必ずしも分かりやすいものではなく、留学希望者に過度な負担を強いており、このことが我が国への留学を躊躇させる要因の一つとなっている。優れた留学生を世界各国からこれまで以上に我が国に引きつけるために、渡日前入学許可を実現させることが不可欠であり、そのために必要な日本留学のための新たな試験の内容、実施方法、実施体制等について検討し、取りまとめを行った。

(2) 新たな試験は、我が国の大学（学部）等に入学を希望する外国人留学生の日本語および基礎学力の評価を行う試験とし、その名称を「日本留学試験」とする（以下「日本留学試験」という。）。

(3) 現行の私費外国人留學生統一試験は、「日本留学試験」の開始年の前年の実施をもって廃止する。日本語力の測定については、現行の日本語能力試験（一級・四級）の利用に代えて「日本留学試験」において実施する。

(4) 大学院は、その専門分野により求められる能力及び条件が多様であり、また、大学間で研究指導教員を主体とした情報交換等による受入れの連携などもあることから、大学院レベルのために特定した試験の開発は行わず、大学院独自の選考に委ねるものとする。

2 「日本留学試験」の基本的内容等

(1) 試験科目等

試験科目及び各科目の試験時間は次のとおりとする。また、各科目の試験の出題範囲等については、各科目のシラバスによるものとする。

文系…日本語（二〇分）、総合科目（八〇分）、数学（八〇分）

理系…日本語（二〇分）、理科（物理、化学、生物から二科目選択・八〇分）、数学（八〇分）

なお、英語については、「日本留学試験」では実施しないこととし、必要に応じて各大学等においてTOEFL等の活用を図る。

(2) 出題言語

日本語及び英語により出題する（日本語の科目は日本語による出題のみ）。

日本語による出題においては、外国人名、専門用語等に英語を付記する。

(3) 解答方法

日本語…多肢選択方式（マークシート）及び記述式とする。

基礎学力…多肢選択方式（マークシート）とする。

(4) 成績評価

年複数回実施を行うことから得点の等化を行うとともに、複数年度を通して、素点ではなく共通の尺度上の得点で成績を表示することによって、受験者の成績評価に公平を期す。